

第10章 ISO14001の取組

ISO14001は、国際標準化機構（ISO）が定めた環境管理のための「システム（仕組み）」の規格です。

ISO14001による環境マネジメントシステムの特徴は、PDCAサイクルと呼ばれるもので、環境方針、環境目標を定め、環境目標を達成するために、自らが取り組むことを定めます。そして、取組を実行し、チェックを行い、必要に応じて、「是正」、「改善」を行うことにあります。

また、環境マネジメントシステムを構築することで、職員の環境に対する意識を向上させ、環境に配慮した行動をすることが期待されています。

1 ISO14001の認証登録

本市では、本庁舎において、ISO規格に適合した取組が行われているかどうかの第三者機関（審査機関）の審査を受けて、平成14年12月にISO14001の認証登録を行いました。

平成15年度 主なISOの取組

平成15年度 環境目標	実績	評価
平成13年度電気使用量*1(1,253,066 kWh)を6%以上削減する	-15.17% (1,062,924 kWh)	○
平成14年度*2のエネルギー使用量(41,820.5 %)を1%以上削減する	-1.04% (41,383.7 %)	○
平成14年度軽油使用量(1,551.5 %)を1%以上削減する	-20.14% (1,239.0 %)	○
平成14年度紙の使用量*2(6,809,749.3枚【A4換算】)を1%以上削減する	-11.70% (6,012,720.7枚)	○
平成13年度上水の使用量(3,905.0 立方メートル)を6%以上削減する	-17.93% (3,205.0 立方メートル)	○
平成13年度天然ガスの使用量(149,569.0 立方メートル)を1%以上削減する	-11.87% (131,818.0 立方メートル)	○
平成13年度天然ガスの使用量(公用車分 1,405.7 立方メートル)を1%以上削減する	+8.02% (1,518.04 立方メートル)	×
使用するプリンタートナーのリサイクル品の使用率を50%以上とする	約80%の使用	○
平成15年度中の車両更新時には低公害車の導入を促進する	車両更新なし	-
公共事業における砕石、アスファルト混合物の再生材料使用量割合の把握		
砕石 全体 7,421 立方メートル うち再生資材 7,153 立方メートル	96.4%	-
アスファルト混合物 全体 4,164 t うち再生資材 3,984 t	95.7%	-
平成13年度の一般廃棄物の排出量(49.44 t)を6%以上削減する	-8.74%(45.12 t)	○

*1 動力系、緊急時用電力を除く

*2 平成14年8月から平成15年3月までの使用量

2 環境方針

宝塚市環境方針

1 基本理念

宝塚市は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題であることを認識し、行政サービスにおける事務事業のすべての面で、環境の保全に配慮して行動いたします。

市は、平成7年度に総合計画を環境分野から推進するための「宝塚市環境基本計画」を策定し、まちづくりに取り組んできました。

また、平成13年度には、「宝塚市環境実行計画」を策定し、自らが環境に大きな負荷をかけていることを認識し、環境に対する負荷を軽減するために、率先して行動しております。今後、これらの計画を適正、かつ、着実に推進していくために、環境マネジメントシステムを構築し、運営することにより、環境負荷の継続的な改善を図るとともに、汚染の予防に努め、環境の保全に取り組んでまいります。

2 基本方針

宝塚市は、次の方針に基づいて基本理念の実現に取り組めます。

- (1) 環境に関連する法令及び受け入れを決めた要求事項を遵守します。
- (2) 事務及び事業活動における環境に与える影響を調査・評価し、環境に与える負荷を低減するための目的・目標を定め、それを実現するためのプログラムを実行し、定期的に見直しを行い、継続的に改善します。

特に次の事項について重点的に取り組めます。

- ① 省エネルギー・省資源を図るとともに廃棄物の減量・リサイクルを推進します。
 - ② グリーン購入に努めます。
 - ③ 公用車における低公害車の導入を推進します。
 - ④ 公共事業の実施に当たっては、計画の段階から環境に配慮し、環境に与える影響の低減に努めます。
- (3) この環境方針は、広く公表するとともに、職員一人ひとりがこの趣旨をよく理解し、真剣に取り組めます。
 - (4) 環境方針及び環境マネジメントシステムに基づく活動結果は、公表します。



平成15年 4月27日

宝塚市長

渡部 完